

ふれあいを大切に、あなたと育む JAえひめ南 広報紙

みなみかぜ

2018
10

No.259
JA EHIME MINAMI
MINAMIKAZE



特集

・被災地復興を目指して

がんばろう!宇和島

宇和島市かんきつ農家復興支援プロジェクト 支援金508万円に JA えひめ南通じ活用

西日本豪雨で被害を受けた宇和島市吉田地区のかんきつ農家を支援しようと、JA えひめ南、宇和島市、同市吉田町かんきつ農家と災害復興の分野で多数の実績を持つ一般社団法人RCFが連携し「クラウドファンディング」を実施しました。7月27日～8月10日にかけて、クラウドファンディング大手の「Ready For」を通じインターネット上で復興支援のための資金を募りました。結果、全国各地から616人の温かい支援があり、目標の200万円を大幅に超える508万8千円が寄附されました。また、マスクミヤインターネット交流サイト(SNS)を通じて情報が広がり、被災状況を周知することができました。

同JA管内のかんきつの被害は8月3日時点で13億8千万円。集まった寄付金は、同JAが手数料を除く415万3千844円全額を吉田地区かんきつ農家の復興作業の費用に充てます。農業用ダムから取水するポンプやタンク等の支払いに約200万円を使用した他、「みかんダンボール箱(3キヨ用)」等、復興支援の輪を広げることを目的とした販促物製作費用への充当を検討しています。

吉田地区かんきつ農家の清家雅史さんと清水武尊さんは全国から寄せられた支援について、「水が確保でき、災害後に少しでも早く作業に取り掛かれたことは、農家にとって安心した一つのきっかけとなった。今年も美味しいかんきつをつくり、全国の皆さんに恩返しできるようこの災害を乗り切りたい」と話しています。



支援金贈呈式の様子：左からかんきつ農家小清水さん、黒田組合長、(一社)RCF藤沢代表取締役、岡原市長



寄付金で購入した水中ポンプを使用する清家さん

西日本豪雨から2カ月が経過した現在も、被災地の完全復旧にはまだ時間がかかる見通しで、継続的な支援が求められています。JAえひめ南では各関係機関と連携を図り、復旧作業に取り組んでいます。



8/4 中村知事 共選場を視察

愛媛県の中村時広知事が8月4日、西日本豪雨で被害を受けた宇和島市吉田地区を視察しました。中村知事はJAえひめ南味楽共選場で、同JA販売部の白井照良次長から共選場内の選果施設(アポルタイザー、出荷口ボット)や計量器(トラックスケール)などの浸水や土砂流入による被害状況について説明を受けました。

その後、みかん研究所や甚大な被害を受けた吉田町白浦のかんきつ園などを訪問。被害状況を視察し現状を確認しました。

8/3~4 JA鳥取中央が支援

8月3、4日の両日、JA鳥取中央が復旧支援活動を行いました。JA鳥取中央とはJA間提携で交流を続けている縁で、今回支援を派遣しました。河野正人常務を支援隊長とした役職員6人が宇和島市を訪れ、味楽共選場内の側溝の泥の撤去作業と、ミカン園の横の崩壊した道路の復旧作業に当たりました。



8/7~8 姉妹JAが農機修理

JAえひめ南は8月7、8日の両日、姉妹JAを提携するJAいわて中央から農機修理の支援を受けました。

JAえひめ南管内の農機被害は小物から大型機械まで広範囲で、修理依頼が絶えない中、JAいわて中央の上戸修さん(右)と板山和晃さん(左)が、トラクターやコンバインを整備し、水不足で故障した水中ポンプやエンジンポンプを修理。組合員が持ち込んだ農機の修理にも手際よく対応しました。

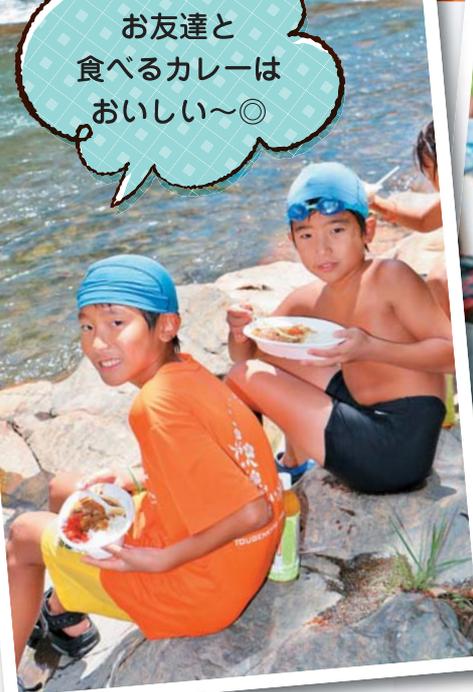
第3回

たくさん遊んでカレーおいしく♪

愛南町にある山間の緑と僧都川の清流に包まれた山出キャンプ場。今回のあぐりスクールでは、晴天の下「日帰りキャンプ」でカレー作りや川遊びを通して自然の美しさや大切さを学びました。カレー作りでは、地元のニンジンやタマネギ、ジャガイモを食材にしました。生徒は先生に教わりながらカレーを完成させ、昼食にしました。「みんなで作ったカレーはおいしい！」と生徒たちは大喜びでした。また、みんなで一緒に川遊びをして楽しい時間を過ごしました。



お友達と
食べるカレーは
おいしい〜◎



日帰りキャンプ

8月18日(土)
場所/南宇和郡愛南町
山出キャンプ場
参加人数/生徒36人 先生40人
体験/カレー作り・川遊び

元気いっぱい川遊び！



たのしい夏の思い出ができたよ☆





8 / 6

早期米収穫始まる

JA えひめ南管内で早期米の稲刈りが始まりました。宇和島市津島町清満地区の農事組合法人いわぶちは8月6日から「コシヒカリ」の収穫を始め、コンバイン2台で黄金色に実った稲を刈り取り同JAライスセンターに出荷しました。同法人は同地区の30%のうち、17%分の稲刈りを作業受託しています。品種は全て「コシヒカリ」。同法人の山内源晴さんは、「今年は長雨や高温の影響で収穫量減を心配していたが、平年並みの収穫量を予想している」と話します。



8 / 10

米の品質上々

JA えひめ南津島営農センターは8月10日、宇和島市津島町の同センター横の第14倉庫前で早期米の検査をしました。検査員2人が穀刺しで試料を抜き取り、形質や整粒、被害粒の割合などを鑑定し等級を決定。「コシヒカリ」1059袋(1袋30kg)と「あきたこまち」15袋を集荷し、検査しました。今年度は高温が続く白未熟粒を懸念していましたが、品質は昨年より良く1等米の比率が高い結果が出ました。

9月上旬まで早期米、その後は普通期米の「にこまる」「ヒノヒカリ」の検査に移り、10月下旬まで続きます。

今年度の早期米の比率は85%で、普通期米、もち米の合計が15%の見込み。集荷目標は昨年度より4000袋増の6万8000袋を見込んでいます。



8 / 17

キックオフ会議開く

JA えひめ南信用部は8月17日、南宇和城辺支所で「年金強化重点推進キックオフ会議」を開き、役職員28人が参加しました。昨年からの始まり、毎年管内の年金実績から現状を分析し、年金純増に向けた目標や具体的な対策を確認することで全職員の意識を統一しています。

今年度は支所全体で行うミーティングや、窓口での提案や訪問推進を強化し、南宇和管内の年金獲得・純増を目指します。





8/21

手芸づくり楽しむ

JA えひめ南女性部三間町支所「たんぼぼ学級」は8月21日、三間町支所で手ぬぐいキャップづくりに部員28人が挑戦しました。佐賀県JAからつ発祥のてぬぐいキャップ。部員はそれぞれ好きな柄の布を選び30分程度で手早く作ることができました。



8/22

ぶどう狩りで笑顔

JA えひめ南女子大学「おれんじキャンパス」は8月22日、第2回目のカリキュラムとしてブドウ収穫体験を内子町の(有)観光ふじぶどう園で開きました。生徒、職員34人が参加し、「巨峰」と「ピオーネ」の収穫を楽しみました。参加者は「甘くておいしい」と収穫したブドウを堪能しました。

次回は10月11日に宇和島市の木屋旅館で和装体験を予定しています。





8/28

中晩かん仕上げの講習



JA えひめ南宇和島共選中晩柑部会は8月28日、部会員の栽培技術向上や情報共有を目的に仕上げ摘果講習会を開き、部会員15人が参加しました。

宇和島市の坂下津、来村、藤江にある部会員の園地を巡回し、同JAみかん指導課の松本和樹指導員と浜名慶太指導員が「せとか」「ポンカン」「不知火(デコポン)」「甘平」の仕上げ摘果を実演。それぞれの品種に合わせたコツを指導し、部会員は熱心に耳を傾けました。肥大状況は8月の干ばつで鈍化していますが、強摘果で果実が割れないよう注意することをポイントとしました。

部会員の三浦義博さんは「仕上げ摘果だけでなく、かいよう病や防除についても指導を受け、非常にためになった。教わったことを自分の園地で実践したい」と意欲的に話しています。



8/29

ボウリングで交流深める

8月19日、大洲アクアボウルで青年部・女性部交流ボウリング大会を開きました。青年部と女性部がスポーツを通じて相互の交流とふれあいを深め、活動の活性化を図ることを目的に毎年実施しています。男女混合のチーム戦で、参加者は共に汗を流しストライクがでるたびに盛り上がりを見せました。



9/3

アレンジメントでリフレッシュ



JA えひめ南女性部生活文化部会は9月3日、JA本所で講師のすざく工房の佐久保朱見さん指導のもとシャボンフラワーを使ったアレンジメントを楽しみました。それぞれが色とりどりの花やリボンを使い個性豊かな作品に仕上げました。参加者からは「石鹸の優しい香りに包まれながらアレンジメントし、仕事の合間に良いリフレッシュになった」と大好評でした。



9/3

野菜担当者会議開く



JA えひめ南は9月3日、JA本所で野菜担当者会議を開き、担当者11人が参加しました。会議では、7月末の販売実績や秋冬品目（ブロッコリー等）の進捗状況など7つの項目について協議し、担当者同士で情報共有や意見交換を行いました。

また、生産者の所得向上の方策として、サトイモ・菜花の契約販売やブロッコリー共選集約化による販売強化などについて話し合いました。



9/5

園地管理技術 互評会で磨く

JA えひめ南宇和島共選中晩柑部会は9月5日、園地互評会を開き部会員ら25人が参加しました。日頃の努力を評価し合うほか部会員同士の情報共有や技術向上を目的に昨年からはじめました。参加者は各生産者の園地を視察し、除草や防除等の基本管理や果実の肥大状況、木の揃い具合など総合的に判断し、良いと思った園地に順位を付け評価しました。

視察後は同JAみかん指導課の技術指導員から各園地の総評と今後の園地管理について指導があり、上位3人の生産者を表彰しました。また、市場関係者を交え意見交換会を開きました。

松本和樹指導員は「部会員のレベルが年々向上しており、一般の栽培者と比べると園地の基本管理や正品率に著しい差が表れている。また、園地互評会をすることで部会員同士の競争意識が芽生え、他の生産者の見本となるより良い園地を目指すことにも繋がるだろう」と強調しました。



園地を視察し、生き生きと意見を交わす部会員



表彰式の様子



意見交換会の様子

JAの自動車共済 お見積りキャンペーン実施中!

平成30年4月より
自動車共済掛金率水準が

平均
約 **3.8%** も

引下げとなりました!!

※上記の数値はあくまで全体の平均値であり、掛金への影響は個々の契約内容により異なります。

この機会にぜひ一度JAで
お見積りください

お見積り
無料!



お気軽に共済窓口にお声掛けください!

掛金の負担が軽くなるかもしれません!

JAの自動車共済

お見積り
キャンペーン



▼キャンペーンWebサイトはこちら

<http://car-cp.ja-kyosai.or.jp>

またはJA共済ホームページ<http://www.ja-kyosai.or.jp>からもアクセスできます。スマートフォン等は
コチラから



JA共済

あなたもチャレンジ！家庭菜園／坂木技術士事務所／坂木利隆

たくさん育て、たくさん食べよう タマネギ

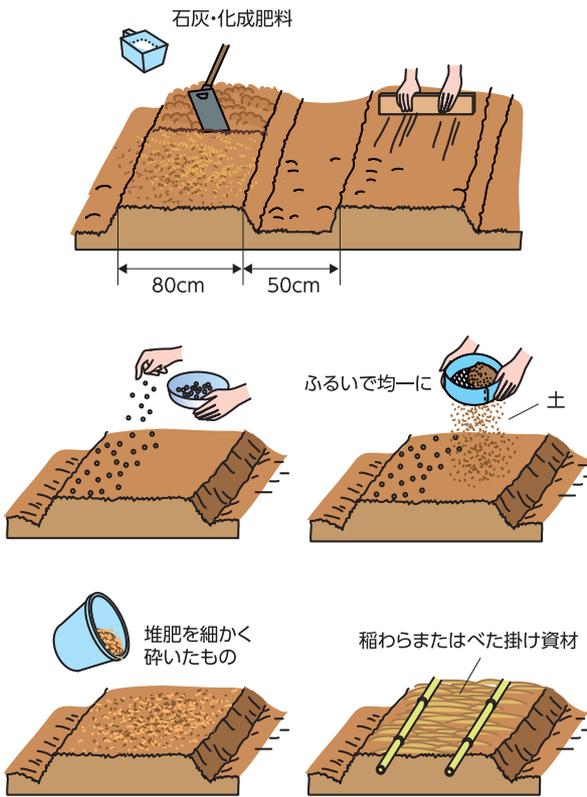
切ると出る涙の原因は硫化ア

リル、ビタミンB₁の吸収を助けて新陳代謝を活発にし、コレステロールの代謝を活発にし、血液をサラサラにして動脈硬化や高血圧、糖尿病を予防する効果もあります。近年明らかになったところによると、野菜の中では最も細菌病、大腸菌などを寄せ付けず、安全性では極めて優れていることが裏付けされています。

ます。

タマネギは病害に強く、毎年同じ畑でも作れるので、自家菜園の作付けにとっても大変有利です。貯蔵力もあり、使い道も幅広いので、たくさん育てることをお勧めします。

家庭菜園では、通常晩秋に出回る苗を買い求めて育てる場合が多いのですが、ご承知のようにタマネギは黄、白、赤の品種が



あり、収穫期の違う極早生、早生、中生、晩生と特徴のある数々の品種があります。これらを上手に育て楽しむには、自分で好みの品種を選び、種子から育てる必要があります。特に直売など販売を目的とする場合は、苗代の負担も大きくなってしまいます。

種まきの適期は、極早生8月下旬～9月上旬、早生9月上旬、中生9月中旬、晩生は9月下旬です。適期まきはとても重要なことなので、地元のJAや種苗専門店、栽培農家などに聞いて決めることが大切です。特に中晩生の品種を早くまき過ぎると、越冬するまでに大きく育ち過ぎ、寒気に感じ過ぎてとう立ちするものが多く、失敗します。

苗を上手に育てるには、苗床の前作を早めに片付け、種まきの20日以上前に完熟堆肥と石灰、化成肥料をよく耕やしておきます。トマト、ナスなどの強い

根が残る野菜の跡地は避けてください。

種まき前にベッドを作り、図のように丁寧なベッドの表土をならしてから約1～2cm間隔ぐらいに均一に種をまきます。そしてふるいで2～3mmほどの厚さに、満遍なく覆土し、板切れなどで軽く表土をたたいて鎮圧し、その後ジョウロでたっぷり灌水(かんすい)します。

その上に細かく砕いた完熟堆肥をごく薄く覆い、その後苗床全面を稲わらやべた掛け資材を二重に覆い、残暑や乾燥、台風や強風の被害から守ります。

種まき後5～7日で発芽し苗が伸び始めたなら、これらの被覆資材は取り除き、ジョウロでたっぷり灌水して生育を促します。

※関東南部以西の平たん地を基準に記事を作成しています。

パズル？ 頭の体操

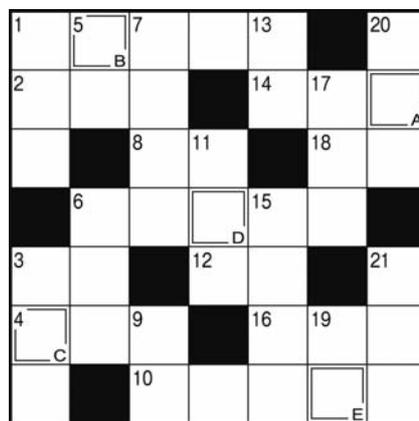
出題 ● ニコリ

タテのカギ

- ① 馬に乗る人のこと
- ③ マガロを改良して作られました
- ⑤ お金を借りると付くことも
- ⑥ 日本海軍が造った世界最大の戦艦
- ⑦ 軍配を持って土俵に上がります
- ⑨ 神社で神事に奉仕する女性
- ⑪ 泡立ててメレンゲを作ります
- ⑬ 田畑を耕す道具の一つ
- ⑮ 首都はハノイ。米の生産が盛んな国です
- ⑰ —— あれば憂いなし
- ⑲ 野球でランナーが滑り込む所
- ⑳ カトリックでは神父、プロテスタントなら
- ㉑ リレーの選手がつかなく物

ヨコのカギ

- ① ギーツジョンと鳴く秋の虫
- ② 図書館で専門的な仕事をします
- ③ 海に潜って貝などをとる職業
- ④ 目のこと。じぶらな——
- ⑥ ゆらゆらとバランスを取る玩具。長い腕を持つ人の形をしています
- ⑧ 子(ね)と黄(と)の間
- ⑩ 警察官や消防士、裁判官はこれ
- ⑫ 黄門様のお膝元です
- ⑭ 決まった時間に寝起きする、——正しい生活
- ⑯ 渦巻き模様が付けられた練り物
- ⑰ 二十世紀、新高などの品種があります



8月号の答え



たくさんのご応募ありがとうございます。8月号の答えは「ナツマツリ」でした。正解者の中から抽選で5名の方に、JA支所店舗などでお使いいただける1500円分の商品券をお贈りします。なお当選者の発表は、賞品の発送に代えさせていただきます。(〆切10月31日)

〒179-0031 宇和島市栄町港
JAえひめ南 三三〇三
総務課 様
〒〇〇〇〇〇〇
郵便番号
住所
氏名(年齢)
電話番号
電話に関する感想やご意見
などをお聞かせください。

メール eminami@ja-eminami.or.jp

JAえひめ南旅行センター からのお知らせ

JAえひめ南旅行センター 観光情報「世界遺産シリーズ」

今回は岐阜県と富山県にある「白川郷・五箇山の合掌造り集落」をご紹介します。

白川郷・五箇山の合掌造り集落(しらかわこうごかやま)が、つづくりしゅうらくは、
 ・合掌造り家屋は、豪雪地帯に合わせた建築様式を代表する顕著な見本であること
 ・合掌造り集落は、その地域の大家族制度や生産体制に見合った土地利用の顕著な見本であること
 が評価され、1995年、文化遺産に登録されました。

1. 荻町集落(おぎまちしゅうらく)
 2. 菅沼集落(すがぬましゅうらく)
 3. 相倉集落(あいのくらしゅうらく)
- 登録地域の面積は、構成資産68ヘクタール、それを保護する緩衝地帯58873ヘクタールです。



合掌造り(がっしゅうづくり)

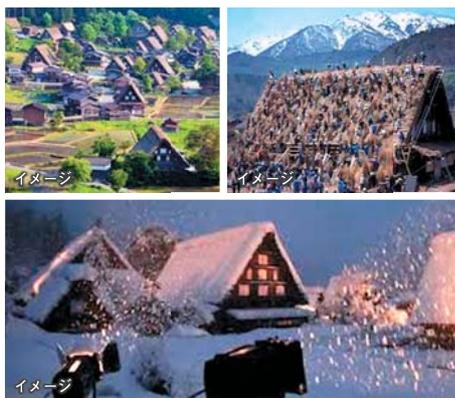
屋根の形が合掌した時の手の形に似ていることから「合掌造り(がっしゅうづくり)」と呼ばれ、屋根の角度は45〜60度の急勾配で雪が降っても自重で落ちるよう工夫されています。構造は2階以上に柱を立てることなく広いスペースを確保できる又、茅葺屋根の葺き替えは30年〜40年に1度、結(ゆい)と呼ばれる地域住民の共同作業で行われています。



農協観光 愛媛支店
田代 雅裕

結の心

白川郷では「結ゆい」の心を大切にしています。「結」とは相互扶助のことです。白川郷の生活は、昔から個々の家の助け合いと協力があつてこそ成り立つものでした。冬は雪に閉ざされてしまうので、家同士が助け合えないと生きていけないくらい、厳しい自然条件でもありました。そのため、1年を通して様々な暮らし行事の場面で助け合いが必要とされ、白川郷ならではの相互扶助の関係が築かれていきました。その「結」の心は現代にも、しっかりと引き継がれており、例えば合掌造りの茅葺屋根の吹き替えを、村をあげてみんなで協力しておこなっています。そしてこの共同作業の場は、次の世代へ先人の生活の知恵を伝える貴重な場、きっかけにもなっています。「結」があつたからこそ、合掌造り集落も存在することができたといつても過言ではないかもしれません。



日本のみならず世界中から観光に訪れる方がおり、日本らしさを感じるにはピッタリの場所です。1年を通して四季折々の景色が堪能できます。冬限定のライトアップもおおすすめです！

詳しい内容についてはJAえひめ南旅行センターにお問い合わせください。住所:宇和島市栄町港3丁目303番地 TEL:0895-24-5905 FAX:0895-24-5906

みつば会会長の一言



みつば会 会長
城下 芳子(しろした よしこ)

<プロフィール>

生年月日：1954年5月18日生まれ 64歳

主な経歴：1998年～ JAでヘルパーに従事
2018年5月～ みつば会会長を務める

趣味・特技：みそ作り、カラオケ

尊敬する人物：人前で堂々と話ができる人

休日の過ごし方：料理、作業着のつくろい

「みつば会」で活動しませんか？

7月の豪雨災害により、今も大変な思いをして暮らしている多くの方々、心よりお見舞い申し上げます。一日も早い復興を願っています。

JA助けあい組織「みつば会」は、1998年9月に発足し、今年で20周年を迎えます。「みつば会」では、地域の皆様が安心して暮らせる住み良い地域社会を目指して活動しています。主に、依頼された炊事、掃除、庭の除草等を行う「有償ボランティア」や、地区の公民館に集まり手作りの昼食やおやつを提供しゲームや手芸で楽しい時間を過ごす「ミニデイサービス」を行い毎回多くの方々にご喜ばれています。

振り返れば、私はJAが介護の仕事立ち上げた頃、第1回ヘルパー講習を受け、ヘルパー3級と2級の資格を取得しました。当時、両親も若く主人の理解もあったことからヘルパーの仕事に就きました。入浴車に乗ったりすることが楽しく、生き生きと仕事を頑張っていた頃が懐かしく思い出されます。

今の「みつば会」は、ヘルパーの資格がなくとも活動できます。これからも「みつば会」の活動を通じて地域社会の中で思いやりの心と笑顔で、高齢者に長く寄り添っていただけたらと思っています。

現在、「みつば会」では会員を募集しています。年齢は問いません。興味のある方は(電)2218152 生活福祉指導課まで。一緒に活動を広げていきましょう！

理事会報告
平成30年度 第5回理事会

平成30年8月28日(火)

(協議事項)

第1号議案 貸出業務取扱要領の一部変更について

第2号議案 玉津共選償却負担金に関する特例対応について

(報告事項)

① 平成30年7月末事業実績について

② 平成30年6月末財務基盤向上プラン実績について

③ 「西日本豪雨災害」による被災を受けられた方の購買未収金に関する支援について

④ 新規就農応援事業(平成30年度募集)について

⑤ 豪雨災害に伴う復興に向けた今後の対応について

(その他)

① 次回理事会開催予定について
平成30年9月28日(金) 午後1時30分

農協まつり等の開催中止のお知らせ

「中止のイベント」

① 10月開催予定の農協まつり(三間)

② 11月開催予定のJAフェスティバル

(津島)

③ 11月開催予定の農協まつり(南宇和)

本誌の感想をはじめ、皆さんの身のまわりで起きた小さなニュースをお送りください。掲載させて頂いた方にはお礼として、お近くの支所店舗でお使い頂ける500円分の商品券をお贈りします。(お送りいただいた内容は主旨を変更しない範囲で語句を修正させていただく場合があります)

8月号では、表紙や特集、JAトピックスに。そして毎年「夢フェスタ」でいつも輝く笑顔で掲載されている女性部伊予吉田町支所のみなさん。「地域に活気が生まれる活動」を推進されていることを強く感じます。一日も早く復興が進み、これからもまたみなさんのすてきな笑顔が紹介されることを楽しみにしています。
(鬼北町 Y・Nさん 61歳)

みなみかぜの表紙を見た時、「見たことがある人たちだなあ」と思い読んでみると、親子3人で女性部に入っているとのこと。これからも頑張って活動して下さい。
(吉田町 A・Iさん 79歳)

いちご部会会長の兵頭さま、毎日のいちご作りお疲れ様です。私の近所にもいちご農家の方がおられるので興味深く拝見させて頂きました。
(愛南町 M・Yさん 63歳)

松野の桃いいですね、大好きです。色づきが良く甘味の強い松野の桃、最高です。
(三間町 S・Nさん 70歳)

先日宇和島で来村のデラウエアを買って帰り友達にも御裾分けしてあげたら「甘くておいしかった」と喜んでくれました。本当にまた食べたいと思うほどに美味でした。
(愛南町 R・Oさん 75歳)

今が旬のぶどうですが、大好きで毎日のように食べています。ぶどうには美肌効果やアレルギー症状の緩和があるそうです。
(愛南町 M・Uさん 51歳)

退職し家庭菜園を始めて15年！4、5年前からキュウリを植え、今年初めて109本も採れました。やった〜！ちなみに苗は4本です。
(鬼北町 T・Nさん 62歳)

西日本豪雨により、いまだかつてない甚大な被害に見舞われました。お友達も亡くなられ、未だ現実を受け止められませんが、そんな中、JAからの水の支援、ありがたかったです。
(吉田町 M・Hさん 80歳)

災害ボランティアに来て頂いたすべての方々に心より感謝申し上げます。今後ともよろしくお願い致します。吉田町の皆様、前を向いてぼちぼち頑張っていきたいと思います。
(吉田町 T・Mさん 56歳)

豪雨で被災された方々、土砂のかき出し、後片付け、大変だと思えます。無理をせず、お体に気をつけて、休み休み頑張ってください。
(宇和島市 Y・Sさん 45歳)

お便りを掲載させて頂いた方にはお礼として、お近くの支所店舗でお使い頂ける500円分の商品券をお贈りします。

【お詫びと訂正】

「みなみかぜ」9月号(No.258)につきまして、15ページに掲載しました「JA共済からのお知らせ」の記事において、問い合わせ先が一部間違っておりましたので、お詫びと訂正をさせていただきます。

【誤】

代表 (0895)22-8115
宇和島支所 (0895)52-0666
立間中央支所 (0895)58-3322

【正】

代表 (0895)22-8111
宇和島支所 (0895)22-8114
立間中央支所 (0895)52-0666
三間町支所 (0895)58-3322



私事ですが、8月23日をもって、第59代愛媛みかん大使としての任期を無事に終えることができました。全国各地での愛媛県産柑橘のPR活動を通して得た貴重な経験と多くの出会いには、私にとってかけがえのないものになりました。関係者の皆様や応援してくださった方々に、心より感謝いたします。ありがとうございました!!
(藤田)



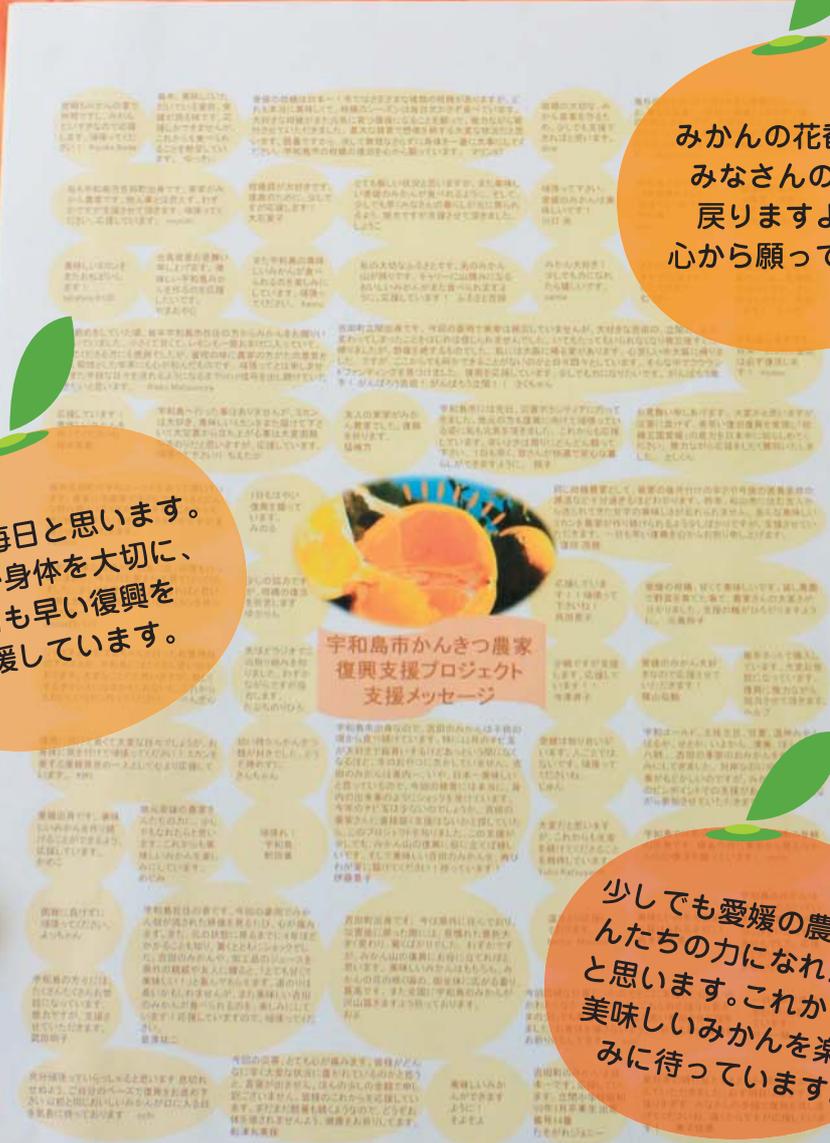
今月の表紙は、あぐりスクールの一コマです。生徒たちは毎月様々な体験を通して「食」やそれを支える「農業」を学び、「自然」を大切に思う思いやりの心を育んでいます。



今日の表紙

繋がる 思い。

宇和島市かんきつ農家復興支援プロジェクトで募ったメッセージ集を、市役所1階のロビーに展示し、紹介しています。全国各地からたくさんの方の心温まるメッセージを頂きました。



みかんの花香る里が
みなさんの笑顔が
戻りますように。
心から願っています。

大変な毎日だと思います。
どうか身体を大切に、
一日も早い復興を
応援しています。

少しでも愛媛の農家さん
たちの力になれば
と思います。これからも
美味しいみかんを楽し
みに待っています。

写真：吉田町かんきつ農家・小清水千明さん